

2023年1月13日

各位

会社名株式会社メタリアル  
代表者名代表取締役五石 順一  
(コード番号: 6182)  
問合せ先取締役 荒川 健人  
グループ管理本部長  
(TEL. 03-6685-9570)

### 2023年2月期連結業績予想修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2022年4月14日に公表した2023年2月期の連結業績予想を、下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 2023年2月期連結業績予想(2022年3月1日~2023年2月28日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	4,299 ~5,380	306 ~803	未定	未定	未定
今回修正予想 (B)	4,240	400	未定	未定	未定
増減額 (B - A)	△59 ~△1,140	94 ~△403	-	-	-
増減率 (%)	△1 ~△21	31 ~△50	-	-	-
(ご参考) 2022年2月期実績	4,159	91	△45	△1,238	△116.24

(ご参考) 2023年2月期連結業績予想 セグメント別売上高、営業利益

売上高

(単位：百万円、%)

セグメント	前回発表予想 (A)	今回発表予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)
MT 事業	3,074~3,674	2,870	△204~△804	△7~△22
HT 事業	1,191~1,550	1,360	169~△190	14~△12
メタバース事業	33~154	10	△23~△144	△70~△94
その他本社費等	-	-	-	-

営業利益

(単位：百万円、%)

セグメント	前回発表予想 (A)	今回発表予想 (B)	増減額 (B-A)	増減率 (%)
MT 事業	503~913	570	67~△343	13~△38
HT 事業	158~351	250	92~△101	58~△29
メタバース事業	△421~△315	△450	△29~△135	43~7
その他本社費等	△39	30	69	-

(ご参考) 2022年2月期連結業績実績 セグメント別売上高、営業利益

(単位：百万円)

セグメント	売上高	営業利益
MT 事業	2,934	380
HT 事業	1,219	182
メタバース事業	4	△477
その他本社費等	-	7

## 2. 修正の理由

MT 事業の当第3四半期においては、AI 自動翻訳市場の拡大、成長に伴い同市場への新規参入企業が増加し、価格を含む競争フェーズに移行してまいりました。その中で主軸製品であるドキュメント AI 自動翻訳部門において前年同期を下回る受注となりました。新プロダクトである AI 音声翻訳部門においては前年同期を大幅に上回る着地となりました。

ただし、AI 音声翻訳の受注増はドキュメント AI 自動翻訳の受注乖離を吸収するレベルにまでは至っておりません。

※従前の展示会によるリードの創出に高く依存していた受動的なスタイルから、既存のお客様への業務改善・プロダクトミックス提案やウェビナー開催等による積極的かつ能動的なコンタクト機会の創出等を中心に行っております。

なお、ドキュメント AI 自動翻訳部門においては業績予想上の根拠となった受注計画（下限）に対して下回る結果となりました。

2022 年 2 月期第 2 四半期決算短信において記載しました「成熟フェーズへの切り替え」の実行並びに自動翻訳市場の更なる拡大へ向けた産業翻訳業界への啓発活動加速を行った結果、現在ご契約いただいているお客様の活性化により、利用拡大、受注単価増へと繋がっておりますが、コスト重視の一部のお客様においては安価で提供する他社プロダクトへの乗り換えも発生し、流動性の高い状況となっております。

新規参入企業が増加したことにより、ドキュメント AI 翻訳市場は競争が激しくなることが予想されますが、弊社は価格競争に参入することなく、お客様の利益に繋がる価値ある製品・サービスを提供する戦略をとり、大手顧客の受注拡大を達成してまいります。

新プロダクトである会議音声翻訳ツール『オンヤク』をはじめとした、AI 音声翻訳部門においてはお問い合わせ、商談件数共に増加傾向にあり、市場としても徐々に開拓されている状況にあり、受注計画（下限）に対して大幅に上回る結果となりました。今後も音声翻訳市場は拡大傾向にありますので、引き続き受注拡大に向け活動いたします。

MT 事業の年間決算においても、売上高はドキュメント AI 翻訳部門の乖離を吸収するには至らないことが想定されます。なお、固定資産関連の費用をはじめとした費用削減も行われており、売上数値は当初計画（下限）を下回っているものの営業損益については当初計画（下限）を上回る想定です。また、MT 事業について、足元におけるコロナ禍影響は軽微なものの、今後の感染状況拡大による経済停滞次第では大きな影響が発生する可能性があります。

期中実績の確定並びに上記の受注・費用見込み等に鑑みて、従前レンジを用いていた業績予想数値は売上高 3,074～3,674 百万円から 2,870 百万円へ、営業利益 503～913 百万円から 570 百万円へ修正されたものとなります。

HT 事業においては、実績積み上げによる予測数値確度の向上に伴い、従前のレンジを用いた業績予想から特定値による業績予想開示への修正されたものとなります。なお、HT 事業におけるコロナ禍の影響について、2023 年 2 月期第 3 四半期については、行動制限解除などを背景に売上高・営業利益共に前年同期を上回る水準に留まりました。第 4 四半期においてもコロナ後に向けての補充要員先行採用に伴う費用等は発生するものの行動制限解除継続を前提に同傾向が継続するものと見込んでおります。

メタバース事業においては、実績積み上げによる予測数値確度の向上に伴い、従前のレンジを用いた業績予想から特定値による業績予想開示への修正されたものとなります。メタバース事業におけるコロナ禍影響は引き続き軽微であります。

以上